

令和 6(2024)年度発行『地理探究』(地探 703) 訂正, 記述変更・資料更新一覧表

2024年4月

■ 訂正箇所

箇所		訂正前	訂正後
ページ	行		
39	11	赤黄色土は, 多雨により腐食が流出して表層に砂,	赤黄色土は, 多雨により腐植が流出して表層に砂,
70	7-8	(図2: SSP1-2.6)	(図2: SSP1-1.9)
77	3	羊や山羊の家畜飼育を組み合わせたものである(図5)。	羊や山羊の家畜飼育を組み合わせたものである(写真5)。
89	写真4	↑4 WFPによる学校給食の提供(イエメン・サナア, 2020年12月撮影) 学校に行けば給食を食べることができるため, 子供にとって, 学校に行くことは生きることにつながっている。	↑4 WFPによる学校給食の提供(イエメン・サナア, 2020年12月撮影) 学校に行けば給食を食べることができるため, 子供にとって, 学校に行くことは生きることにつながっている。
107	TRY	地図から, それぞれの工場の分布の傾向を読み取ってみよう。各工場の分布とその工業の立地指向にはどのような関連があるのだろうか。考えてよう。	地図から, それぞれの工場の分布の傾向を読み取ってみよう。各工場の分布とその工業の立地指向にはどのような関連があるのだろうか。考えてみよう。
112	図2	↑2 バングラデシュから日本への縫製品の輸入推移	↑2 バングラデシュから日本への縫製品の輸入額の推移
145	左13	それらの国々の多くは乳児死亡率も50%以上と高い一方, 先進国は10%未満と低いことがわかる。	それらの国々の多くは乳幼児死亡率も50%以上と高い一方, 先進国は10%未満と低いことがわかる。
161	作業指示	図6の駅のできる前は, どのような場所に集落が形成されていたか, 読み取ってみよう。	図7の駅のできる前は, どのような場所に集落が形成されていたか, 読み取ってみよう。
176	図1	(コプト教の文字をエジプトのキリスト教分布の位置に移動)	
195	図2	(図番号とタイトル「↑2 地誌的な考察方法」を追加)	
198	16	子供の過保護が社会問題になったほか(図4),	子供の過保護が社会問題になったほか(写真4),
260	図1	(オイミヤコンの位置を移動)	
285	写真7	↑7 シドニーの多文化主義のイベント「パラサマラ」	↑7 シドニーの多文化主義のイベント「パラマサラ」

■ おもな記述変更・資料更新箇所

箇所		変更前	変更後
ページ	行		
5	「言葉の整理」の目次	ネイティブアメリカンとインディアン	ネイティブアメリカンとインディアン
8	図 1	図中：中央インド洋海嶺の位置を移動	
12	図 1	図中：2023 年トルコ・シリア地震を追加，アルメニア地方→アルメニア	
21	コラム	海面は120mほど上昇したと考えられている。	海面は <u>現在までに</u> 120mほど上昇したと考えられている。
26	図 3	(一部)	(一部)
29	作業指示	秋吉台の台地上には畑はみられるが、河川や水田はみられない。	秋吉台の台地上には、河川や水田はみられない。
39	23	赤色土のテラロッサ	赤い褐色森林土のテラロッサ
43	コラム	図2を図1と比べると、中国東北部に局所的なBS気候が入るなど、近年の気温上昇や都市化の影響が反映されており、より実態に近い気候区分図が作成できるようになったといえる。	図2を図1と比べると、南米のAf気候の分布域が広がり、シベリアのDw気候の分布域が狭まるなど、より実態に近い気候区分図が作成できるようになったといえる。
49	図 5	図中：アルゼンチンにパンパを追加	
51	写真 4	↑4 二期作での田植え (ベトナム・ハイフォン, 2017年2月撮影) 温帯の北部では二期作, 熱帯の南部では三期作が行われていて, ベトナムは米の輸出国になっている。	↑4 二期作での田植え (ベトナム・ハイフォン, 2017年2月撮影) ベトナム北部では二期作, 南部では三期作が行われていて, ベトナムは米の輸出国になっている。
76	15-16	北極海沿岸地域では、イヌイットなどの先住民がトナカイ(カリブー) <sup>①</sup> の遊牧を行い、 (→p.55)	北極海沿岸地域では、先住民がトナカイ(カリブー) <sup>①</sup> の遊牧を行い、 (→p.55)
96	図 2	(一部)	(一部)
99	図 1 ~ 3	単位の表記を TWh から PWh に変更	
103	左 14	夕方以降の需要の高い時間帯は、余剰電力で水を汲み上げ、ピーク時に発電する揚水発電所や、天然ガス火力発電に切り替えるなど柔軟な電力供給が可能である(図5)。	さらに、最近では、太陽光発電の昼間の余剰電力で汲み上げた水を用いてピーク時に発電する揚水発電や、天然ガス火力発電に切り替えるなど柔軟な電力供給が可能である(図5)。
109	図 5	図中：クリヴォイログ鉄山→クリヴィーリフ鉄山	

箇所		変更前	変更後
ページ	行		
110	図 4		
117	図 4	<p><u>↑4 半導体製造の自動化ライン(ひたちなか市) 装置から装置へ、搬送ロボットが半導体を運び、製造工程を進める。</u></p>	<p><u>↑4 半導体製造の自動化ライン(ひたちなか市) 円形の薄い基板の上に微細な回路を形成する精密な作業が行われる。</u></p>
130	図 1	<p>図中：1980年 東海道・山陽新幹線(東京～大阪) 開通→ 東海道・山陽新幹線(東京～福岡) 開通</p>	
139	14	<p>国内(域内)観光重視への政策転換がはかられているが、 <u>回復には時間がかかるとみられている。</u></p>	<p>国内(域内)観光重視への政策転換がはかられた。<u>感染拡大が落ち着き行動制限が緩和されて、国内・国際とも回復をみせている。</u></p>
161	図 6		

箇所		変更前	変更後
ページ	行		
180	図 1	<p>(2022年) [参考原図]</p>	<p>(2023年) [参考原図]</p>
193	10	<p><b>TPP11 協定</b><sup>①</sup>などがある。<b>TPP11 協定</b>は、2017年に締結されたTPP協定からアメリカが離脱し、</p>	<p><b>CPTPP 協定</b><sup>①</sup>などがある。<b>CPTPP 協定</b>は、2017年に締結されたTPP協定からアメリカが離脱し、</p>
	側注 1	<p>①<b>TPP11 協定</b> 環太平洋においてモノの関税だけでなく、サービスや投資の自由化を進めるための広域的な経済連携協定。2018年に発効した。</p>	<p>①<b>CPTPP 協定</b> 環太平洋においてモノの関税だけでなく、サービスや投資の自由化を進めるための広域的な経済連携協定。2018年に発効し、2023年にイギリスの加盟が承認された。</p>
223	12	人口は2020年までの70年間で3倍以上に増加した。	人口は2020年までの70年間で4倍以上に増加した。
223	12-14	さらに、2023年までには中国を抜き、インドは世界一の人口大国になると予測されている(図6上)。	さらに、2023年には中国を抜き、インドは世界一の人口大国になった。2060年代の17億人程度まで増加を続け、その後ゆるやかに減少すると予測される(図6上)。
224	15-16	ムスリムも比率では1割強だが、その数は1.9億と世界で2番目に多い。	ムスリムも比率では1割強だが、その人口は1.9億と世界で2番目に多い。
225	地域の話題	ラダク地域 <sup>ほけん</sup> をめぐるインドと中国の覇権争いがある。	チベット仏教徒が多いラダク地域 <sup>ほけん</sup> をめぐるインドと中国の覇権争いがある。
228	写真 3	↑3 「インドのシリコンバレー」バンガロールで働く人々	↑3 「インドのシリコンヴァレー」バンガロールで働く人々
	豆知識	インドのシリコンバレー バンガロールはマイソール王国の首都がおかれたことから発展し、現在、インド第四の都市。高原で冷涼な気候のため大学や研究機関が集中し、ICT産業の中心になっている。	インドのシリコンヴァレー バンガロールはマイソール王国の首都がおかれたことから発展し、現在、インド第四の都市。高原で冷涼な気候のため大学や研究機関が集中し、ICT産業の中心になっている。
233	写真 5	↑5 近代的なハズレット・スルタン・モスク(カザフスタン・ヌルスルタン、2019年撮影)	↑5 近代的なハズレット・スルタン・モスク(カザフスタン・アスタナ、2019年撮影)
237	写真 6	↑6 ナゴルノ＝カラバフのキリスト教教会(アゼルバイジャン、2021年2月撮影) アルメニアからアゼルバイジャンに返還された地域にあり、ロシア軍が保護している。	↑6 ナゴルノ＝カラバフのキリスト教教会(アゼルバイジャン、2021年2月撮影) アルメニアからアゼルバイジャンに返還された地域にあり、アルメニア人は退去した。
	右 6-13	カフカス山脈の南麓では、キリスト教とイスラームの信仰地域が入り組んでおり、たびたび地域紛争が生じている。アゼルバイジャン国内で、キリスト教徒のアルメニア人が暮らすナゴルノ＝カラバフ地域では、2020年に戦闘が激化した。ロシアの仲介による停戦協定の結果、約2/3がアゼルバイジャンに返還されたが、残りの1/3はアルメニア人主体の「アルツァフ共和国」による統治が続いている(図4)。	カフカス山脈南麓では、キリスト教とイスラームの地域が入り組んでおり、たびたび紛争が生じている。アゼルバイジャン国内で、キリスト教徒のアルメニア人が暮らすナゴルノ＝カラバフは、2020年の戦闘を経て約2/3がアゼルバイジャンに返還され、残りの1/3でアルメニア人主体の「アルツァフ共和国」(図4)による統治が続いたが、2023年に再び攻撃を受け降伏し、アルメニア人の避難が始まっている。
248	図 2	図中：2023年に更新。クロアチアのユーロ導入を反映	
263	5-6	ウラジオストクやサハリンの南端の積出基地 <sup>つみだし</sup> までパイプラインで運ばれ、船で輸出されている。(図2)。	大陸側のデカストリ <sup>つみだし</sup> からサハリンの南端の積出基地までパイプラインで運ばれ、船で輸出されている。(図2)。

箇所		変更前	変更後
ページ	行		
263	地域の 話題	日本の中古自動車は、 <u>2022年にウクライナ紛争が激化した後も輸出が続いている。</u>	日本の中古自動車は販売が続いているが、 <u>紛争の激化により輸出規制が強化されている。</u>
265	図 3	図中：ワシントン → ワシントン <u>D.C.</u>	
	図 5	図中：ワシントン → ワシントン <u>D.C.</u>	
270	図 2	図中：2023 年に更新。チュール基地を追加。 フィンランドの NATO 加盟を反映。	
278	22	2018年に <u>TPP11</u> 協定が発効した。 (→p.193)	2018年に <u>CPTPP</u> 協定が発効した。 (→p.193)
278	図 2	図中：2023 年に更新。TPP11 → <u>CPTPP 協定</u>	
283	11	<u>地下資源</u> の開発は、内陸での土地開発や	<u>鉱産資源</u> の開発は、内陸での土地開発や
283	図 6	↑6 オーストラリアの産出シェアの高い <u>鉱産資源</u> オーストラリアで産出された <u>鉱産資源</u> の大半は、世界各国へ輸出される。中国の経済発展を背景に、 <u>鉱産資源</u> の輸出における中国の割合が高まっている。	↑6 オーストラリアの産出シェアの高い <u>鉱物資源</u> オーストラリアで産出された <u>鉱物資源</u> の大半は、世界各国へ輸出される。中国の経済発展を背景に、 <u>鉱物資源</u> の輸出における中国の割合が高まっている。
286	図 2	図中：2023 年に更新。イギリスの CPTPP 加盟を反映。 TPP11 → CPTPP 協定, RCEP → RCEP 協定	
286	20	環太平洋地域の 11 か国による <u>TPP11 協定</u> が発効した。 (→p.193, 291)	環太平洋地域の 11 か国による <u>CPTPP 協定</u> が発効した。 (→p.193, 291)
290	右 7	オーストラリアやニュージーランドは、 <u>TPP11 協定</u> に加盟し、 (→p.286)	オーストラリアやニュージーランドは、 <u>CPTPP 協定</u> に加盟し、 (→p.286)
291	図 5	図中：TPP11 → CPTPP 協定	
291	タイトル	<b><u>イギリスが TPP11 のメンバーになる？</u></b>	<b><u>イギリスが CPTPP のメンバーになる！</u></b>
291	1	イギリスは、2021年に <u>TPP11 協定</u> への加盟を <u>申請した。</u>	イギリスは、2023年に <u>CPTPP 協定</u> への加盟を <u>承認された。</u>

## 図版・グラフなどの統計更新

### 第 I 編

2 章 2	資源・エネルギー	p.97 図 3, p.100 図 1/ 図 2, p.101 図 6
2 章 3	工業	p.105 図 5
3 章 1	交通・通信	p.126 図 2
4 章 1	人口	p.147 図 4/ 図 6

### 第 II 編

2 章 6	北アフリカ・サブサハラアフリカ	p.243 図 5
-------	-----------------	-----------